

協会けんぽと建設国保の保険料負担や給付の違いについて。どちらに加入すべき？

はじめに

国土交通省では現在、平成29年度までに建設業の許可業者に対し、社会保険（雇用保険・健康保険・厚生年金）の100%加入を目指し、徹底するよう取り組みを行っています。

社会保険未加入対策に取り組む理由の一つは、深刻な若年層の建設業離れに歯止めをかけ、必要な人材を確保するためです。

具体的には「許可・更新時の確認・指導」「立入検査」「経営事項審査」や「指名競争入札」の際に保険加入の確認がされている状況です。

この機会に、協会けんぽと建設国保について取り上げてみたいと思います。

但し、意見にわたる記述は私見であることをあらかじめ申し添えます。

1. 医療保険制度

国の医療保険制度には、国民健康保険、健康保険、共済組合、後期高齢者医療制度等があります。

協会けんぽと建設国保は、どの保険制度にあたるのか下記にまとめました。

(1) 健康保険の種類

- ①全国健康保険協会管掌健康保険の**協会けんぽ** (旧：政管健保)
- ②組合管掌健康保険の組合健保

(2) 国民健康保険の種類

- ①市町村管掌の国民健康保険
- ②国民健康保険組合管掌の国保組合 (**建設国保**もその一つです。)

管轄だけでなく、保険料や給付内容も違います。

2. 加入資格

協会けんぽ

従業員が5人以上の個人事業所や法人の場合には、加入が義務付けられています。

すでに建設国保に加入している被保険者については「健康保険（協会けんぽ）の適用除外」の承認を受けることで例外的に引き続き建設国保に加入することもできます。

建設国保

建設工事業に携わっている方で、原則、従業員が常時5人未満の個人事業所や一人親方の方が加入できます。

3. 保険料

協会けんぽ

保険料は、事業主と被保険者が折半で負担します。(※任意継続被保険者の保険料は、全額本人負担です。)

保険料の額は、被保険者の標準報酬月額及び標準賞与額に保険料率（一般保険料率＋介護保険料率）をかけた額となります。保険料率は都道府県ごとに異なります。つまり、賃金の額や地域によって保険料は変動します。

扶養家族に対する保険料は不要です。

建設国保

保険料は、区分ごとの定額制です。被保険者の保険料分に対する事業主負担はありません。

建設国保も国民健康保険ですから、市町村の国民健康保険と同様に、被保険者が保険料を全額負担することになります。その分、事業主（会社）側の経費節減になります。

建設国保は扶養という考え方がないため、世帯人数分の保険料を徴収されます。

被保険者の世帯の保険料額は、組合員の仕事の形態と年齢及び家族の人数に応じた額の合算額となりますので、扶養している家族が多いと、保険料も上がります。※国保組合ごとに独自の内容を設けていますので、保険料や給付についての詳細は国保組合ごとに異なります。

4. 給付

建設国保については、傷病手当金の受給期間や金額等、給付の内容や種類も国保組合ごとに異なります。

下記に、協会けんぽと建設国保（東京土建）の保険料と給付の比較例をあげてみました。

例) 35歳で月給28万円の常勤従業員（介護保険料非該当）  
妻（35歳）の扶養あり。

H25年3月分以降の保険料率	保険料負担額		給付
	会社	従業員	入院した場合の傷病手当金
協会けんぽ 例) 東京支部	13,958円/月 ※従業員全員分の半額を会社が負担	13,958円/月 ※扶養者の分は従業員の金額に含む	6,220円/日 ※4日目から起算して最高1年6か月
建設国保 例) 東京土建	0円/月	21,400円/月 17,200(従業員)+4,200(妻) ※年齢・扶養数等によって変動	4,400円/日 ※入院5日目から起算して最高6か月

5. おわりに

協会けんぽと建設国保の保険料等の違いについて、主にご説明してきました。それでは、いったいどちらに加入したほうがいいのでしょうか？

賃金の額、扶養者の数、年齢などにより保険料の金額が変動することや、国保組合によって給付の内容も様々であるため、一概に判断はできません。

資金に余裕がない場合は、会社負担分の保険料がない建設国保を選択するということになるかもしれません。その場合は、事前に従業員へ説明されることをお勧めします。

しかし、社会保険未加入対策の目的である、建設業の深刻な人材不足を解消し、継続的に発展していくには、働く人やその家族のために、やはり協会けんぽに加入することが必要でしょう。

会社の保険料負担が多くなるというデメリットはありますが、長期の療養が必要になったときの傷病手当金について、国保組合に比べると保障の期間が手厚いことや、福利厚生面についても、優秀な従業員を雇い入れ、長く働いてもらうための人材確保・定着に繋がるという大きなメリットがあります。